

学校支援ボランティアの迎え入れ体制③



学校内の受け入れ体制 10か条

第1条 研修をしよう

学校支援ボランティアについての理解を深めるために、進んで研修に参加したり、校内での研修を行ったりしましょう。

第2条 担当者を決めよう

学校支援ボランティアにとって、学校には来たものの誰に声をかけていいのかわからないというのは、とても困ります。ボランティアと学校をコーディネートする担当者を決めて、対応するとよいでしょう。

第3条 学校が必要とするボランティアの情報を知らせよう

学校がどのような学校支援ボランティアを必要としているのか、学校の情報を地域に発信し、必要としているボランティアを知ってもらいましょう。

第4条 学校行事へ招待しよう

日頃から、地域住民や学校支援ボランティアを学校行事へ招待し、参加してもらいましょう。行事を通して子どもたちの実態や学校の様子を理解してもらう、絶好のチャンスです。学校への理解が深まり、先生や子どもたちとのコミュニケーションも生まれ、スムーズな活動につながります。

第5条 施設設備・教材を見てもらおう

学校には、どのような施設・設備や教材があるのかという情報は、学校支援ボランティアが活動内容を考えるときに、とても役立つ情報です。教材を見てもらう日を設定し、効果的に情報を提供する機会を作りましょう。

第6条 学校とボランティアとの情報を共有しよう

学校の経営計画はもちろんのこと、学年目標や学級目標、各学級担任や校務分掌など、学校が提供できる情報は、できるだけ提供しましょう。情報はキャッチボールです。ねらいを定めて情報を提供することで、地域からの情報も入ってきます。ボランティアと学校との情報を交流させ、たくさん共有しましょう。

第7条 ボランティア掲示板を置こう

学校支援ボランティアが校内外で活動していることが、子どもたちや先生たちにもわかるように「今日のボランティア」掲示板などを設置するとよいでしょう。

第8条 ボランティアルームをつくろう

余裕教室や特別教室を利用して、「ボランティアルーム」を設置することにより、ボランティアが活動の準備や後片付けに利用できます。また、ボランティア同士の情報交換などにも便利です。

第9条 ボランティア用名札・リボンを用意しよう

学校支援ボランティア専用の名札やリボンを用意し、活動中はつけてもらうようにすると、先生たちや子どもたちも一般の来校者との区別ができます。また安全管理の面からもよいでしょう。

第10条 保険の加入を確認しよう

学校支援ボランティアの保険の加入について、確認しましょう。